

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価

資料3-2

（自己点検評価）【総括表】

【評価結果】A：計画以上に達成（100%以上）、B：概ね計画どおり達成（80%以上～100%未満）、C：達成せず（80%未満）

【重点目標・その他の実績】「有」の場合、「+」表示（「新しいチャレンジ」や「外部との連携」に該当するものは、□表示）

事業項目 (Plan)	主な目標達成状況／その他実績 (Do)	評価結果 (Check)	今後の課題・対応方向 (Action)
資料の収集・保存と利活用 1	C ウェブサイト新規公開数 7% A 特別観覧件数 124% + { ・文化観光推進事業により、「アイヌ語アーカイブ」をリニューアル ・全国樺太連盟からの寄贈資料(6,000点)の登録を完了	B +	・改正博物館法で、博物館の事業として新たに位置づけられた「資料のデジタルアーカイブ化」について、補助事業終了後以降も継続的・計画的に実施していくための方策・財源を検討
展示 2	A 総合展示資料の入替件数 175% C 特別展示室利用者数 67% + { ・文化観光推進事業により、アイヌ文化の展示改修 ・異なる研究分野合同で「新着資料・研究成果展」を開催 新チャレンジ ・道民参加型展示、巡回展・出張展示 - で他団体・他機関と連携 連携	B +	・展示の内容～意図・見どころが、より多くの人に伝わるよう工夫・配慮 ・展示の企画～来館者の興味・関心を喚起する観点から、社会情勢や道の政策の動きなども踏まえた検討
調査研究 3	A 外部資金による研究課題数 127% A 成果発表数（学会誌・学会発表等） 223%	A	・研究活動・環境の充実、社会還元の拡大に向けた予算の拡充 ・新たなプロジェクト展開に向けた検討 ・DXが進展する中、調査研究成果のデジタル技術の活用検討
教育普及事業 4	A 教育普及イベント参加者数 116% A はっけん広場利用者数 107% + { ・教育普及行事にウェブフォームによる申込方法を導入 新チャレンジ ・開館10周年記念事業（スペシャルトークイベント）の開催	A +	・学習ニーズの多様化に対応できるよう、多様な分野から体験プログラムを企画 ・DXが進展する中、デジタル技術を活用し、学びの機会の質・量を拡充
道民・地域との協働と地域活性化への貢献 5	C グループレクチャー実施件数 59% A インターンシップ等受入数 140% + { ・札幌国際芸術祭（主催者：札幌市）の企画・運営への協力 連携	B +	・学校団体の利用～認知向上のための情報発信が重要 ・博物館実習～業務全般の効率化・改善を進めることが必要
野幌森林公園エリアの活用と整備 6	A 記念ホール等施設活用件数 118% B 屋上スカイビュー開放日数 80% + { ・文化観光推進事業により、開拓の村建造物の展示整備、展示解説の多言語化、公開型修復工房の整備	B +	・施設・設備の損壊・故障等、緊急事態に対応可能な財源の確保 ・ユニークベニューとしての施設の活用方策を検討 ・アドベンチャー・トラベルの舞台として、野幌森林公園の利用の促進

事業項目 (Plan)	主な目標達成状況／その他実績 (Do)	評価結果 (Check)	今後の課題・対応方向 (Action)
7 広報	C ウェブサイトアクセス数 66% A X (旧ツイッター) 投稿数 107% + { ・開館10周年記念事業 (10周年記念展、スペシャルトークイベント等) 実施 ・書店員Vtuberと当館学芸員とのコラボレーションによる広報	B +	・赤れんが庁舎がリニューアル・オープンしたことを契機に、新たな周遊を促す広報・情報発信を強化 ・観光客に「行きたいと思わせる」情報コンテンツの構築と関係機関連携による情報発信・PR
8 評価と利用者調査を活用した管理運営	A 利用者満足度 (特別／総合) 103% B 利用者満足度 (指定管理) 90% + { ・組織改正 (課制導入、センター新設) ・博物館法に基づく博物館登録 ・第3期における評価制度の整備	A +	・利用者満足度調査～DXが進展する中、デジタル技術の導入を検討、外国人観光客層の動向・ニーズ把握 ・評価・満足度調査の結果が、運営改善や職員の士気高揚につながるよう、活用方策・あり方について検討
9 道民参加の推進	C 道民参加の様々なあり方検討 0% A ちやれんが古文書クラブ参加 165%	B	・これまで実施している道民参加に関する取組の充実 ・地域住民の意見・ニーズの反映、知見の活用といった観点から、新たに道民が主体的に関与できる機会を引き続き検討
10 博物館ネットワーク	A 全国博物館大会等への出席 100% A 周辺地域ネットワーク参加 125% + { ・博物館法に基づく博物館登録	A +	・全道の中核的役割を担い、全国博物館との連携における地域の拠点的な役割を果たすための事務局機能の維持・継続 ・道内の中核的役割を発揮しうる能力・資質を備えた人材の育成【再掲12】
11 情報発信	A レファレンス件数 115% C ウェブサイト新規公開数【再掲1】 7% + { ・文化観光推進事業により、ウェブサイトのコンテンツの拡充 (森のちやれんがニュースのウェブ記事化、外国語ページ充実)	C +	・改正博物館法で、博物館の事業として新たに位置づけられた「資料のデジタル・アーカイブ化」について、補助事業終了後以降も継続的・計画的に実施していくための方策・財源を検討【再掲1】
12 職員の人材育成機能の強化	A 定例研究報告会発表人数 100% A 職員の外部研修参加人数 233%	A	・改正博物館法で、博物館の事業として新たに位置づけられた「学芸員等の人材の養成・研修」について、道内の中核的役割を発揮しうる能力・資質を備えた人材を育成【再掲10】 ・特に、若手学芸職員への組織的なサポート、外部研修の財源確保
13 アイヌ民族文化に関する取り組み	A アイヌ文化展示等件数 383% C 未公開資料の新規公開件数 0% + { ・文化観光推進事業により、「アイヌ語アーカイブ」をリニューアル、展示改修【再掲1, 2】 ・他自治体共催の巡回展開催、Punkarネットワークへの参加	A +	・情報提供・支援のニーズの増加が予想される中、引き続き、アイヌの歴史や文化に関する専門的研究機関を有する総合博物館として、着実かつ継続的に活動を展開

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		1 資料の収集・保存と利活用								
担 当 課		学芸部 展示・資料課								
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針 1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図る。								
中期目標・計画の内容 (Plan)		(1) 資料の収集・保存 ～ 適切な収集、登録・整理、保存環境の維持 (2) 資料の利活用 ～ ウェブサイトでの公開、資料目録の刊行等による情報提供、 収蔵資料データベース情報の充実、SNS・デジタルアーカイブでの発信								
予 算 措 置 の 状 況		(単位：千円)								
		事業名	概要	R7	R8	R9	R10	R11	計	備考
		博物館事業費 (資料収集・保存管理)	博物館の各種活動（資料収集・保存）に要する経費	355	355				710	
		博物館事業費（アイヌ研：資料収集）	アイヌ文化に関する資料収集等経費	268	268				536	
		情報システム整備	博物館情報システム管理費	7,441	5,768				13,209	
		樺太記憶継承事業費 (資料保管)	全国樺太連盟から移譲された資料の保存処理	663	663				1,326	基金
		文化観光推進事業費 (魅力増進事業)	収蔵資料のデジタル化等	11,300	9,288				20,588	国庫補助事業
		計		20,027	16,342	-	-	-	36,369	
活 動 実 績 (Do)		(単位：回数、件数)								
		項 目	指 標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度
		資料審査会開催回数	目 標	6	6	6	6	6	30	100.0%
			実 績	6					6	
		収蔵資料の新規登録件数／データベース新規登録数	目 標	400	400	400	400	400	2,000	26.3%
			実 績	105					105	
		資料のカビ・汚損等の発生件数	目 標	0	0	0	0	0	0	100.0%
			実 績	0					0	
		ウェブサイト「収蔵資料検索ページ」新規公開数	目 標	1,200	600	600	600	600	3,600	6.6%
			実 績	79					79	
		資料貸出件数	目 標	25	25	25	25	25	125	100.0%
			実 績	25					25	
		特別観覧件数	目 標	45	45	45	45	45	225	124.4%
			実 績	56					56	
		模写品等刊行物等使用承認件数	目 標	120	120	120	120	120	600	110.0%
実 績	132						132			
(太字は計画目標値)								平均	81.0%	
自己点検評価 (Check)	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果	
	目標・計画の達成状況	概ね計画どおり達成 81.0%	(1) 収蔵資料新規登録数については、全国樺太連盟から寄贈された樺太関係資料3,335件の登録の完了に注力し、その他の資料の登録数は105件に止まった。 (2) ウェブサイトの新規公開数は、R7は、年度内にデータベースのリニューアルに伴う移行作業が発生し、目標を大きく下回った。							B +
	重点目標	有無	重点目標その他の実績等の内容							
	その他実績等の有無	有	・文化観光推進事業により、アイヌ語音声資料の概要や音声をウェブ上で閲覧・視聴できる「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」をリニューアルするとともに、当館で開催するイベント等において活用が可能な映像資料のデジタル化を実施した。 ・全国樺太連盟からの寄贈資料6,000点について、令和8年度の企画テーマ展開催を見据え、令和6年度、7年度（各年度3,000点超）に集中的に作業を進め、登録を完了させた。							
	成果 (アウトカム)	成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点） 博物館の活動の基本となる、資料の収集・保存、利活用の水準維持が図られ、基本方針1（1）総合博物館として、備えるべき基本的機能の充実に寄与した。								
課題と対応方向 (Action)		今後の課題と対応方向 改正博物館法において、博物館の事業として新たに位置づけられた「資料のデジタルアーカイブ化」については、文化観光推進事業を活用し、主要な資料のデジタル化を実施しており、令和9年度の補助事業終了後以降も継続的・計画的に実施していくための方策・財源を検討していく必要								

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		2 展 示								
担 当 課		学芸部 展示・資料課								
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針 1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図る。								
中期目標・計画の内容 (Plan)		(1) 総合展示室の運営 ～ 展示解説の充実、多くの収蔵資料の展示 (2) 企画展示の開催 ～ 特別展、企画テーマ展の開催、より魅力的な展示の開催、図録等の刊行								
予 算 措 置 の 状 況		(単位：千円)								
		事 業 名	概 要	R7	R 8	R9	R10	R11	計	備考
		博物館事業費 (総合展示・テーマ展)	博物館の各種活動（展示、展示解説員）に要する経費	1,237	1,113				2,350	
		博物館事業費 (大型プリンタ)	大型プリンタリース料	183	183				366	
		博物館事業費 (展示解説業務)	会計年度任用職員雇用経費	17,676	22,143				39,819	
		博物館事業費 (10周年記念事業)	10周年記念展、トークイベント、広報経費	3,954	-				3,954	
		特別展開催事業費	特別展開催に要する経費	9,000	9,000				18,000	
		樺太記憶継承事業費 (展示公開)	全国樺太連盟から移譲された資料の展示	4,877	4,877				9,754	基金
		文化観光推進事業費 (魅力増進事業)	博物館展示改修	11,300	9,288				20,588	国庫補助【再掲1】
		文化観光推進事業費 (理解促進事業)	展示多言語化等	15,500	4,311				19,811	国庫補助
		計	63,727	50,915	-	-	-	114,642		
活 動 実 績 (Do)		(単位：人数、回数、件数)								
		項 目	指 標	R7	R 8	R9	R10	R11	計	達成度
		総合展示室利用者数	目 標	94,400	96,300	98,200	100,400	102,000	491,300	74.3%
			実 績	70,179					70,179	
		総合展示室利用者数 うち外国人利用者数	目 標	5,740	5,840	5,940	6,040	6,140	29,700	100.9%
			実 績	5,789					5,789	
		クローズアップ展示回数	目 標	27	27	27	27	27	135	107.4%
			実 績	29					29	
		総合展示資料の入替件数	目 標	180	180	180	180	180	900	175.0%
			実 績	315					315	
		総合展示室来館者参加型コーナー参加件数	目 標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	10,000	38.0%
			実 績	759					759	
		特別展示室利用者数	目 標	52,200	53,200	54,300	55,300	56,500	271,500	67.2%
			実 績	35,077					35,077	
企画展示開催数	目 標	4	4	4	4	4	20	100.0%		
	実 績	4					4			
		(太字は計画目標値)							平均	94.7%
自己点検評価 (Check)	目標・計画の達成状況	達成区分	理 由 (要 因)						評価結果	
		概ね計画どおり達成 94.7%	(1) 総合展示室利用者については、近年の物価高騰の影響により、移動費用の高騰、移動手段（バス・運転手）の確保の困難さ等が影響し、特に学校団体の利用が減少した。（R4：2万人→R6:1.4万人→R7:1.3万人） (2) 特別展示室利用者は、マスコミとの共催（R4,5)に比べ、単独開催の場合、伸び悩み傾向にある。（R6:3.9万人、R7:3.5万人）						B +	
	重点目標 その他実績等の有無	有無	重点目標その他の実績等の内容							
		有	・文化観光推進事業により、総合展示室第2テーマ「アイヌ文化の世界」の展示改修を行った。 ・新しい試みとして、異なる研究分野の学芸職員が合同で展示を行う「新着資料・研究成果展」（第25回企画テーマ展）を開催した。 ・開館10周年記念事業（10周年記念展「北海道博物館10周年の歩み」）を開催した。 ・北海道化石会による道民参加型展示、初山別村教育委員会との共催によるアイヌ文化巡回展、浦幌町立博物館および浦幌町中央公民館での出張展示など、他団体・他機関と連携した展示を実施した。							
	成果 (アウトカム)	成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点） ・複数の研究分野に関わる新着資料、複数の研究プロジェクトを同時に一つの企画展として公開する等、資料収集や調査研究の成果を速やかに紹介するとともに、見る者にとって、多角的で魅力的な展示を提供することができた。 ・基本方針 1（1）総合博物館として、展示機能を高め、質の高い活動を展開する博物館づくりに寄与した。								
課題と対応方向 (Action)		今後の課題と対応方向 ・展示の内容については、意図・見どころが、より多くの人に伝わるよう工夫・配慮が必要 ・展示の企画については、来館者の興味・関心を喚起する観点から、社会情勢や道の政策の動きなども踏まえた検討が必要 ・展示の一時休止等が発生しないよう、総合展示室の老朽化した設備・機器の整備が必要								

➡

新しいチャレンジ

連携

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		3 調査研究										
担 当 課		学芸部 研究交流課										
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針 1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図る。 基本方針 4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献する。										
中期目標・計画の内容 (Plan)		(1) 調査研究の実施 ～ 北海道の自然・歴史・文化に関する調査研究の推進 (2) 研究成果の公開と社会還元 ～ 研究成果を展示や教育普及事業等へ反映、出版物刊行、学会発表、学術雑誌投稿、専門的知識の提供										
予 算 措 置 の 状 況		(単位：千円)										
		事 業 名		概 要		R7	R 8	R9	R10	R11	計	備考
		樺太記憶継承事業費 (調査研究)		全国樺太連盟から移譲された資料の研究費		1,181	1,181				2,362	基金
		博物館試験研究費(地域情報集積プロジェクト)		道民と協働・連携した研究費		1,964	1,964				3,928	
		博物館試験研究費(総合研究プロジェクト)		地域博物館と連携した研究費		1,370	1,370				2,740	
		博物館試験研究費(北方文化共同研究事業)		道と友好提携している州との共同研究費		1,001	1,001				2,002	
		博物館試験研究費(外部資金活用研究)		競争的外部資金を活用した研究費		3,923	3,993				7,916	科研費 間接経費
		博物館試験研究費(一般研究)		北東アジアのなかの北海道研究プロジェクト		1,399	1,399				2,798	
		博物館事業費(アイヌ研：調査研究)		アイヌ文化に関する調査研究費		919	919				1,838	
		博物館試験研究費(研究成果の集約・発信)		研究紀要等の発行		702	702				1,404	
		計				12,459	12,529	-	-	-	24,988	
活 動 実 績 (Do)		(単位：件数)										
		項 目		指 標	R7	R 8	R9	R10	R11	計	達成度	
		樺太記憶継承事業調査研究による研究課題数		目 標	1	1	1	1	1	5	100.0%	
				実 績	1					1		
		道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトによる研究課題数		目 標	5	5	5	5	5	25	100.0%	
				実 績	5					5		
		北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトによる研究課題数		目 標	3	3	3	3	3	15	100.0%	
				実 績	3					3		
		北東アジアのなかの北海道研究プロジェクトによる研究課題数		目 標	2	2	2	2	2	10	100.0%	
				実 績	2					2		
		外部資金による研究課題件数		目 標	15	15	15	15	15	75	126.7%	
				実 績	19					19		
		成果発表(学会誌投稿、学会発表、館内外での講座等の総計)		目 標	60	60	60	60	60	300	223.3%	
実 績	134							134				
		(太字は計画目標値)		平均						125.0%		
自己 点 検 評 価 (c h e c k)	目標・計画の達成状況	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果		
	重点目標 その他実績等の有無	計画以上に達成 125.0%	(1) 道費研究プロジェクトを計画どおり実施するとともに、科研費をはじめとする外部資金による研究課題は、目標を上回る件数が採択された。 (2) 全職員が多様なかたちで、研究成果の発表に努め、目標値を大きく上回った。							A		
		有無	重点目標その他の実績等の内容									
	成果(アウトカム)	無										
		成果(基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点)										
			・ 科研費等の個人研究活動とともに、道費の研究プロジェクトも継続的に実施し、また、その成果を多様なかたちで公開・還元することができ、博物館活動の基本となる調査研究機能の水準の維持・向上が図られた。 ・ 基本方針 1 (1) 博物館の備えるべき基本的機能を高めるとともに、4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の豊かな未来の実現に寄与した。									
課題と対応方向 (Action)		今後の課題と対応方向										
		・ 研究活動・環境の充実、社会還元の拡大に向けて、今後、予算の拡充が必要であるとともに、現行研究プロジェクトの総括と新たなプロジェクト展開に向けた検討が課題 ・ D Xが進展する中、調査研究成果のデジタル技術の活用による社会還元の仕組についても検討を進めていく必要										

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		4 教育普及事業								
担 当 課		事業部 教育・広報課								
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供する。								
中期目標・計画の内容 (Plan)		(1) 魅力あるイベントの実施 ～ 幅広い年齢層・ニーズに対応した多彩な行事を実施 (2) はっけん広場の運営 ～ 活動持続のため、職員のノウハウ等の共有や効率的な運用								
予算措置 の 状 況		(単位：千円)								
		事業名	概 要	R7	R8	R9	R10	R11	計	備考
		博物館事業費 (教育普及)	魅力あるイベントの実施	326	326				652	
		博物館事業費 (展示解説業務)	会計年度任用職員雇用経費	17,676	22,143				39,819	【再掲2】
		博物館事業費 (10周年記念事業)	10周年記念展、トークイベント、広報経費	3,954	-				3,954	【再掲2】
		文化観光推進事業費(理解促進事業)	展示多言語化等	15,500	4,311				19,811	国庫補助 【再掲2】
		計		37,456	26,780	-	-	-	64,236	
活 動 実 績 (Do)		(単位：人数)								
		項 目	指 標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度
		教育普及イベントの参加者数	目 標	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	20,000	116.4%
			実 績	4,654					4,654	
		(教育普及イベント：自然観察会、ちゃれんがワークショップ、子どもワークショップ、講演会、ミュージアムカレッジ、古文書講座、アイヌ語講座)								
		はっけん広場利用者数	目 標	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	50,000	107.4%
			実 績	10,739					10,739	
(太字は計画目標値)								平均	111.9%	
自己点検 評価 (Check)	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果	
	目標・計画の達成状況	計画以上に達成 111.9%	(1) 北海道博物館10周年記念スペシャルトーク「恐竜からはじまるミュージアム体験」をはじめ、講演会等の参加者数が多く、目標を上回った。 (2) 特別展のテーマと合わせた「新選組ミ二巾着作り」をはじめ、はっけん広場のイベント参加者数が多く、目標を上回った。							A +
	重点目標	有無	重点目標その他の実績等の内容							
	その他実績等の有無	有	・これまで、教育普及行事の申し込みについては、電話受付により行ってきたが、令和7年度の後半から、ウェブフォームによる方法も導入したことで、多数の申し込みを効率的に受けることが可能となった。 ・開館10周年記念事業（スペシャルトークイベント）を開催							
	成果 (アウトカム)	成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点） 講演会等の複数の教育普及行事が定員に達するなど、利用者にとって魅力ある体験を多く提供することができ、基本方針2（1）わかりやすく、おもしろく、ためになる博物館づくりに寄与した。								
	課題と対応方向 (Action)	今後の課題と対応方向 学習ニーズの多様化、学校教育における新たな学びのかたち（探究学習、情報教育など）に対応できるよう、多様な分野から体験プログラムを企画するとともに、DXが進展する中、リモート形式の講座の導入といったデジタル技術を活用した場所にとらわれない学習機会を提供するなど、学びの機会の質・量の拡充が必要								

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		5 道民・地域との協働と地域活性化への貢献								
担 当 課		総務部 企画課／事業部 教育・広報課／事業部 連携協働課								
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供する。 基本方針4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献する。								
中期目標・計画の内容 (Plan)		(1) 博学連携の推進 ～ 学校団体等を対象としたレクチャーの実施、利用促進 (2) 次代の博物館活動・地域活動を担う人材の育成 ～ 博物館実習生やインターンシップの受け入れ (3) 地域連携の強化 ～ 外部機関の事業協力等								
予 算 措 置 の 状 況		(単位：千円)								
		事 業 名	概 要	R7	R 8	R9	R10	R11	計	備考
		博物館試験研究費（地域情報集積プロジェクト）	道民と協働・連携した研究費	1,964	1,964				3,928	【再掲3】
活 動 実 績 (Do)		(単位：件数、人数)								
		項 目	指 標	R7	R 8	R9	R10	R11	計	達成度
		グループレクチャーの実施件数	目 標	120	120	120	120	120	600	59.2%
			実 績	71					71	
		博物館実習生の受け入れ人数	目 標	20	20	20	20	20	100	75.0%
			実 績	15					15	
		インターンシップ・職場体験の受け入れ人数	目 標	10	10	10	10	10	50	140.0%
			実 績	14					14	
		見学実習の受け入れ人数	目 標	75	75	75	75	75	375	85.3%
			実 績	64					64	
		平均								89.9%
自己点検評価 (Check)	目標・計画の達成状況	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果
		概ね計画どおり達成	(1) グループレクチャーの実施件数については、物価高騰の影響により、移動費用の高騰、移動手段（バス・運転手）の確保の困難さが影響し、学校団体の来訪自体が減少したことが減少要因として考えられる。 (2) 博物館実習については、募集期間に十分な時間を取ることができなかった一方、インターンシップ・職場体験については、見学するだけでなく、実際に、学芸員の仕事を体験してもらうことが魅力として、参加希望者が増えたものとする。							 B  +
		89.9%								
		有無	重点目標その他の実績等の内容							
		重点目標 その他実績等の有無	有	令和9年1～2月に開催が予定されている札幌国際芸術祭（主催者：札幌市）では、当館も会場の一つとして予定されており、7年度において、芸術祭全体会議に出席するなど、企画・運営に協力した。						
	成果 (アウトカム)	成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点） ・博物館実習においては、プログラムや評価基準を事前に公開することにより、円滑な実習を進めるだけでなく、学生自らが、求められる役割などについて、自主的・積極的に考える機会を提供することができたこと、また、インターンシップでは、受講生が後に、全校発表会で報告した事例もあることなどから、次代の博物館活動・地域活動を担う人材の裾野の拡大も図られたと考える。 ・基本方針2：道民とともに歩み、愛される博物館として、連携・協働する博物館づくりに寄与した。								
課題と対応方向 (Action)		今後の課題と対応方向 ・学校団体の利用においては、物価高騰等の影響からの減少が懸念される一方で、グループレクチャー自体の認知度も高くないことも要因として考えられることから、今後、認知向上のための情報発信が重要 ・博物館実習に関しては、H Pの早めの周知や見やすさの改善など、受け入れ業務の効率化・改善を進めることが必要								

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		6 野幌森林公園工シアの活用と整備										
担 当 課		総務部 総務課／総務部 企画課／学芸部 展示・資料課										
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供する。										
中期目標・計画の内容 (Plan)		(1) 館内施設の整備と活用 ～ バリアフリー化や施設設備の改修、講堂、記念ホール等の活用 (2) 北海道開拓の村の整備 ～ 維持・修繕と時代に合わせた展示内容の充実 (3) 野幌森林公園施設との一体的な整備の取組 ～ 3施設の一体的・効果的運営										
予 算 措 置 の 状 況		(単位：千円)										
		事 業 名		概 要		R7	R8	R9	R10	R11	計	備考
		文化観光推進事業費（魅力増進事業）		展示整備		11,300	9,288				20,588	国庫補助事業【再掲1】
		文化観光推進事業費（理解促進事業）		展示多言語化等		15,500	4,311				19,811	国庫補助事業【再掲2】
		文化観光推進事業費（利便性・施設整備）		開拓の村施設整備等		36,100	6,067				42,167	国庫補助事業
		開拓の村費		建造物老朽化調査経費		2,297	2,297				4,594	
		北海道博物館管理運営費		指定管理負担金		422,369	449,802				872,171	
		野幌森林公園管理費（維持／非常勤／標準経費）		公用車消耗品、電話料等		49,456	44,223				93,679	
		野幌森林公園施設整備費		森林公園内施設改修		9,000	39,000				48,000	
		利用者のいのちを守る環境整備事業費		開拓の村熱中症対策整備		-	43,450				43,450	
自然公園における旅行者受入機能強化事業費		森林公園内看板・遊歩道整備		-	29,924				29,924	宿泊税基金		
		計		546,022	628,362	-	-	-	1,174,384			
活 動 実 績 (Do)		(単位：件数、日数、回数)										
		項 目		指 標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度	
		施設整備計画に基づく計画修繕実施件数	目 標	1	1	1	1	1	5	100.0%		
			実 績	1					1			
		記念ホール等館内施設活用件数	目 標	11	11	11	11	11	55	118.2%		
			実 績	13					13			
		屋上スカイビュー特別開放日数	目 標	10	10	10	10	10	50	80.0%		
			実 績	8					8			
		開拓の村建造物の老朽度調査の実施件数	目 標	1	1	1	1	1	5	100.0%		
			実 績	1					1			
		開拓の村建造物の内部展示改訂棟数	目 標	1	1	1	-	-	3	100.0%		
			実 績	1					1			
		開拓の村建造物の文化財指定・登録棟数	目 標	選定	協議	協議	1	1	2	100.0%		
			実 績	選定					0			
関係機関との連絡会議・協議会開催回数	目 標	14	14	14	14	14	70	92.9%				
	実 績	13					13					
		平均								98.7%		
自己点検評価 (Check)	目標・計画の達成状況	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果		
		概ね計画どおり達成	博物館、開拓の村の施設整備については、着実に事務・事業を行ったほか、記念ホール等の館内施設も活用が図られ、目標を達成した。 ・屋上スカイビュー特別開放については、雨天中止により、目標達成に至らなかった。									
		98.7%										
	重点目標	有無	重点目標その他の実績等の内容									
	その他実績等の有無	有	・ファシリティ・マネジメント（建物長期保全）に基づく整備を計画的に実施した。 ・文化観光推進事業により、開拓の村建造物の展示整備、展示解説の多言語化、公開型修復工房の整備を実施した。									
成果 (アウトカム)	成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点）											
	・多様な利用者が安全・安心な施設として利用できる環境の創出に努めるとともに、文化観光推進事業により、施設の魅力を高めることができた。 ・基本方針2 豊かな時間と空間を提供する、愛される博物館づくりに寄与した。											
課題と対応方向 (Action)		今後の課題と対応方向 ・建物・設備の老朽化等による損壊・故障の発生が懸念されるため、利用者の安全確保の観点、支障のない博物館事業の運営のためにも、長期保全計画に対応できない緊急事態に対応可能な財源の確保が急務 ・国の望ましい基準改正（第11条第3項：多様な会場利用を含む施設及び設備の活用の促進）を受け、ユニークベニューとしての活用方策を検討し、さらなる活用拡大を図ることが重要 ・近年、野幌森林公園をアドベンチャー・トラベルの舞台として来訪する外国人、また、民間事業者も増えてきていることから、公園内マナーを遵守した中での利用の促進を図っていく必要										

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		7 広 報								
担 当 課		事業部 教育・広報課								
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供する。								
中期目標・計画の内容 (Plan)		・ ウェブサイト、SNSやYouTube等を活用した情報・コンテンツの発信 ・ 道の広報や他機関との連携による広報活動に積極的に企画・参加								
予 算 措 置 の 状 況		(単位：千円)								
		事業名	概要	R7	R8	R9	R10	R11	計	備考
		博物館事業費 (広報サービス)	行事あんない、ちゃれんが ニュース等作成	529	529				1,058	
		博物館事業費 (アイヌ研： 広報)	アイヌ文化に関する広報啓発経 費	251	251				502	
		博物館事業費 (10周年記念事業)	10周年記念展、トークイベン ト、広報経費	3,954	-				3,954	【再掲2】
		文化観光推進事業費 (情報発信)	情報発信強化経費	-	3,610				3,610	国庫補助事 業
計		4,734	4,390	-	-	-	9,124			
活 動 実 績 (Do)		(単位：件数、回数)								
		項 目	指 標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度
		ウェブサイトのアクセス数	目 標	450,000	460,000	470,000	480,000	480,000	2,340,000	65.8%
			実 績	295,941					295,941	
		X（旧ツイッター）投稿数	目 標	100	100	100	100	100	500	107.0%
			実 績	107					107	
報道機関向け説明会実施回数	目 標	4	4	4	4	4	20	100.0%		
	実 績	4					4			
(太字は計画目標値)		平均						90.9%		
自己 点 検 評 価 (C h e c k)	目標・計画の 達成 状況	達成区分	理 由 (要 因)						評価結果	
		概ね計画 どおり達成 90.9%	Xへの投稿や報道機関向け説明会は、目標どおり実施できた一方、ウェブサイトのアクセス数については、収蔵品管理システムの更新・改修に時間を要し、公開したコンテンツを見てもらう時間が十分確保できなかったことが影響し、目標を下回った。						B +	
	重点目標 その他 実績等 の有無	有無	重点目標その他の実績等の内容							
		有	・ 開館10周年記念事業（10周年記念展、スペシャルトークイベント、ハンズオンイベント、屋外フラッグの掲示、広報記事掲載）を実施した。 ・ 書店員Vtuberと当館学芸員とのコラボレーションによる広報を行った。 ・ 札幌市の広報番組ウォッチング札幌NEXT100（TVh）で総合展示室が紹介された。 ・ 文化観光推進事業により、森のちゃれんがニュースのウェブ記事化を実施した。							
		成果 (アウトカム)	成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点） ウェブサイト、SNS、報道機関への説明会といった多様な手法を用い、当館の展示、普及行事、調査研究などの多様な博物館活動への認知や理解の向上を図ることができ、基本方針2「愛される博物館」に寄与した。							
課題と対応 方向 (Action)		今後の課題と対応方向 令和7年、赤れんが庁舎がリニューアルオープンしたことを契機に、新たな観光スポットからの周遊を促すなど、広報・情報発信の強化が必要 特に、教育・学習の観点に比べ、観光客目線に立った発信が少ないため、観光客に「行きたいと思わせる」情報コンテンツの構築と関係機関連携による情報発信・PRが必要								

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

[illegible]

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		9 道民参加の推進								
担 当 課		総務部 企画課／学芸部 展示資料課／学芸部 研究交流課／事業部 教育・広報課								
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針2 道民と共に歩み、愛される博物館として、豊かな時間と空間を提供する。								
中期目標・計画の内容 (Plan)		博物館活動への道民参加の促進 ～ 参加（展示や事業への立案・企画）、サークル・学習、支援（業務・事業のサポート）など様々なあり方検討								
予算措置 の 状 況		(単位：千円)								
		事 業 名	概 要	R7	R8	R9	R10	R11	計	備考
		博物館試験研究費（地域情報集積プロジェクト）	道民と協働・連携した研究費	1,964	1,964				3,928	【再掲3】
活 動 実 績 (Do)		(単位：人数、日数、件数)								
		項 目	指 標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度
		道民参加の様々なあり方の検討	目 標	検討	検討	意見交換	取組実施	取組実施	－	0.0%
			実 績	課題整理中						
		道民・地域との協働・連携による地域情報集積プロジェクトによる研究課題数	目 標	5	5	5	5	5	25	100.0%
			実 績	5					5	
		ちやれんが古文書クラブの参加人数	目 標	125	125	125	125	125	625	164.8%
			実 績	206					206	
		図書室支援員活動日数	目 標	55	55	55	55	55	275	100.0%
			実 績	55					55	
道民参加型展示開設数	目 標	4	4	4	4	4	20	100.0%		
	実 績	4					4			
		平均							93.0%	
自己点検 評価 (Check)	目標・計画の達成状況	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果
		概ね計画どおり達成	・「道民参加の様々なあり方の検討」については、利用可能な施設・設備といった活動の「場」の制約、活動参加者の偏重の可能性、運営に係る業務量の増加といった問題点・課題の洗い出し・整理にとどまったもの。 ・令和2年から実施する道民参加型学習サークルの「ちやれんが古文書クラブ」については、古文書解読への関心の高まりを見せ、目標を上回る参加があった。							
		93.0%								
	重点目標	有無	重点目標その他の実績等の内容							
	その他実績等の有無	無								
課題と対応方向 (Action)		成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点）								
		・道民が利用者としてだけでなく、協働者として参画する機会を継続的に創出することができ、博物館活動を充実させ、地域との関わりを深めることができた。 ・基本方針2の「道民とともに歩み、愛される博物館」に寄与した。								
		今後の課題と対応方向								
		これまで実施している、道民参加型展示、道民・地域との協働・連携による研究、古文書クラブ、図書室支援員（ボランティア）といった道民参加に関する取組の充実を図るとともに、「多様な分野の専門知識を有している」という当館の強みを活かしながら、地域住民の意見・ニーズの運営等への反映、参加者の知見の活用といった観点からも、新たに道民が主体的に関与できる機会を引き続き検討していくことが重要								

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		10 博物館ネットワーク								
担 当 課		総務部 企画課／学芸部 研究交流課／事業部 連携協働課								
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針 3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献								
中期目標・計画の内容 (Plan)		・ 北海道と全国の博物館をつなぐ役割を果たす ・ 道内の博物館ネットワークにおける中核的博物館の役割を果たし、道内の博物館活動の活性化につなげる ・ 道内の社会教育機関と連携し、共同研究、共同事業などを実施								
予 算 措 置 の 状 況		(単位：千円)								
		事 業 名	概 要	R7	R8	R9	R10	R11	計	備考
		各種負担金	日本博物館協会、北海道博物館協会負担金	65	65				130	
		博物館試験研究費 (総合研究プロジェクト)	地域博物館と連携した研究費	1,370	1,370				2,740	【再掲3】
		計		1,435	1,435	-	-	-	2,870	
活 動 実 績 (Do)		(単位：件数、回数)								
		項 目	指 標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度
		全国博物館大会・全国博物館長会議・全国歴史民俗系博物館協議会への出席回数	目 標	2	3	2	3	2	12	100.0%
			実 績	2					2	
		北海道博物館大会（北海道博物館協会主催）開催数	目 標	1	1	1	1	1	5	100.0%
			実 績	1					1	
		北海道博物館協会事務局として道内博物館の災害対応防災連絡体制（マニュアル）の構築	目 標	作成	随時見直し	随時見直し	随時見直し	随時見直し	0	100.0%
			実 績	作成					0	
		北海道博物館協会主催の研修会の実施数	目 標	1	1	1	1	1	5	100.0%
			実 績	1					1	
		かるちやるnet共同イベント開催数	目 標	1	1	1	1	1	5	200.0%
			実 績	2					2	
		CISEネットワーク等周辺地域ネットワーク会議やイベントへの参加回数	目 標	4	3	4	3	4	18	125.0%
			実 績	5					5	
北海道の自然・歴史・文化総合研究プロジェクトによる研究課題数【再掲3】	目 標	3	3	3	3	3	15	100.0%		
	実 績	3					3			
		平均							117.9%	
自己点検評価 (Check)	目標・計画の達成状況	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果
	計画以上に達成	117.9%	全国組織の大会への参加、全道組織の大会・研修会の開催などを目標どおり実施したほか、近隣文化施設の連携組織である「かるちやるnet」の共同イベント（ワークショップ等）の秋・冬の開催、札幌周辺の教育施設の連携組織であるCISEネットワークの会議・イベントに積極的に参加した。							A +
	重点目標	有無	重点目標その他の実績等の内容							
	その他実績等の有無	有	博物館法に基づく登録申請を行い博物館登録原簿へ登録された。【再掲8】							
	成果 (アウトカム)	成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点） ・ 各種大会を通じて、全道の博物館の中核的役割、全国の博物館との連携における地域の拠点としての役割を担うことができた。 ・ 登録博物館として、ネットワーク強化に積極的な役割を果たす上での、信頼を得る法的地位を得た。【再掲8】 ・ 基本方針3道内の中核的博物館として、地域の活性化に寄与した。								
課題と対応方向 (Action)		今後の課題と対応方向 ・ 引き続き全道の中核的役割を担い、また、全国博物館との連携における地域の拠点的な役割を果たすため、事務局機能の維持・継続が重要 ・ 道内博物館においても、人的資源不足等、厳しい運営状況にある中、地域課題の解決に向けた伴走支援の体制構築など、中核的役割を発揮しうる能力・資質を備えた人材を育成していくことが重要【再掲12】								

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目		1 1 情報発信									
担 当 課		学芸部 展示・資料課									
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針 3 北海道の中核的博物館として、地域の活性化に貢献 基本方針 4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献									
中期目標・計画の内容 (Plan)		・ 図書室の蔵書目録等への情報の蓄積、アーカイブ整理とデジタル化、レファレンス事例の集積 ・ 資料情報や学習支援情報の多様な媒体での発信 ・ レファレンスや学習支援等の対応									
予 算 措 置 の 状 況		(単位：千円)									
		事業名	概要	R7	R8	R9	R10	R11	計	備考	
		博物館事業費 (資料収集・保存管理)	博物館の各種活動(資料収集・保存)に要する経費	355	355				710	【再掲1】	
		博物館事業費(アイヌ研：資料収集)	アイヌ文化に関する資料収集等経費	268	268				536	【再掲1】	
		情報システム整備	博物館情報システム管理費	7,441	5,768				13,209	【再掲1】	
		樺太記憶継承事業費 (資料保管)	全国樺太連盟から移譲された資料の保存処理	663	663				1,326	基金 【再掲1】	
		文化観光推進事業費 (魅力増進事業)	収蔵資料のデジタル化等	11,300	9,288				20,588	国庫補助 【再掲1】	
		計		20,027	16,342	-	-	-	36,369		
活 動 実 績 (Do)		(単位：件数、人数)									
		項目	指標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度	
		レファレンス件数	目標	240	240	240	240	240	1,200	114.6%	
			実績	275					275		
		収蔵資料の新規登録件数／データベース新規登録数【再掲1】	目標	400	400	400	400	400	2,000	26.3%	
			実績	105					105		
		図書室利用者数	目標	3,020	3,020	3,020	3,020	3,020	15,100	102.8%	
			実績	3,104					3,104		
		ウェブサイト「収蔵資料検索ページ」新規公開数【再掲1】	目標	1,200	600	600	600	600	3,600	6.6%	
			実績	79					79		
		(太字は計画目標値)								平均	62.5%
自己点検評価 (Check)	目標・計画の達成状況	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果	
		達成せず 62.5%	・レファレンスや図書室利用について、計画以上に達成することができた。 ・ウェブサイトの新規公開数は、R7は、年度内にデータベースのリニューアルに伴う移行作業が発生し、目標を大きく下回った。【再掲1】							 C +	
	重点目標	有無	重点目標その他の実績等の内容								
	その他実績等の有無	有	文化観光推進事業により、ウェブサイトのコンテンツの拡充(「森のちゃれんがニュース」記事をウェブ記事に再編・公開、外国語ページの充実)を図り、インターネット利用者や外国人利用者へ情報発信する取組を実施した。【再掲7】								
	成果(アウトカム)	成果(基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点) 来館者に対する学習支援機能を維持するとともに、インターネット利用者や外国人利用者など、情報を受け取る層の拡大を見据えた取組を行うことができ、基本方針3(2)道民の知的興味に応える博物館づくり、4(1)研究成果を活かした北海道の豊かな未来の実現に寄与した。									
課題と対応方向 (Action)		今後の課題と対応方向 ・改正博物館法において、博物館の事業として新たに位置づけられた「資料のデジタルアーカイブ化」については、文化観光推進事業を活用し、主要な資料のデジタル化を実施しており、令和9年度の補助事業終了後以降も継続的・計画的に実施していくための方策・財源を検討していく必要【再掲1】									

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

項 目	1 2 職員の人材育成機能の強化									
担 当 課	総務部 企画課／学芸部 研究交流課									
位置付け等	〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針1 北海道立の総合博物館として、備えるべき基本的な機能を検証し、その充実を図る。 基本方針4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献する。									
中期目標・計画の内容 (Plan)	- 館内での研究会・研修会の実施 - 学会・研究会等への職員の派遣・発表の促進 - 博物館に関する専門技術や管理運営の研修会への派遣、館外での長期研修への派遣推進									
予 算 措 置 の 状 況	(単位：千円)									
	事 業 名	概 要	R7	R8	R9	R10	R11	計	備考	
	博物館試験研究費 (総合研究プロジェクト)	地域博物館と連携した研究費	1,370	1,370				2,740	【再掲3】	
	博物館試験研究費(研究成果の集約・発信)	研究紀要等の発行	702	702				1,404	【再掲3】	
	計		2,072	2,072	-	-	-	4,144		
活 動 実 績 (Do)	(単位：人数)									
	項 目	指 標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度	
	定例研究報告会での発表人数	目 標	18	18	18	18	18	90	100.0%	
		実 績	18					18		
	職員の外部研修への参加人数	目 標	15	15	15	15	15	75	233.3%	
		実 績	35					35		
平均								166.7%		
自己点検評価 (Check)	目標・計画の達成状況	達成区分	理 由 (要 因)							評価結果
		計画以上に達成	- 定例研究報告会については、計画どおり実施した。 - 職員の外部研修への参加については、研修を希望する職員の所属課との業務の調整を行うほか、オンライン研修への参加を推奨し、旅費の節約に努めたことにより、参加人数の目標値を大きく上回った。(対面参加17人、オンライン参加18人)							A
	重点目標	有無	重点目標その他の実績等の内容							
	その他実績等の有無	無								
	成果 (アウトカム)	成果（基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点） - 定例研究報告会を開催し、職員的能力・資質向上に努めたほか、国等が主催する専門的知識習得に資する研修や道博協が主催する相互交流に資する研修に職員を参加させることで、博物館の基本的機能を発揮しうる人材の育成を図った。 - 基本方針1「総合博物館として、備えるべき基本的機能」の充実、4「専門的・総合的な研究を行う博物館」づくりに寄与した。								
課題と対応方向 (Action)	今後の課題と対応方向 - 改正博物館法において、博物館の行う事業として新たに「学芸員等の人材の養成・研修を行うこと」が規定された。 - 当館の持続的な事業の水準の向上・発展に資するだけでなく、道内博物館においても、人的資源不足等、厳しい運営状況にある中、地域課題の解決に向けた伴走支援の体制構築など、中核的役割を発揮しうる能力・資質を備えた人材を育成していくことが重要【再掲10】 - 特に、当館は、採用10年未満の学芸職員が半数を占めている状況から、若手学芸職員への組織的なサポートの充実、また、外部研修については、継続的・安定的に参加させることができる財源確保が重要									

第3期中期目標・計画期間 令和7年度評価（自己点検評価）

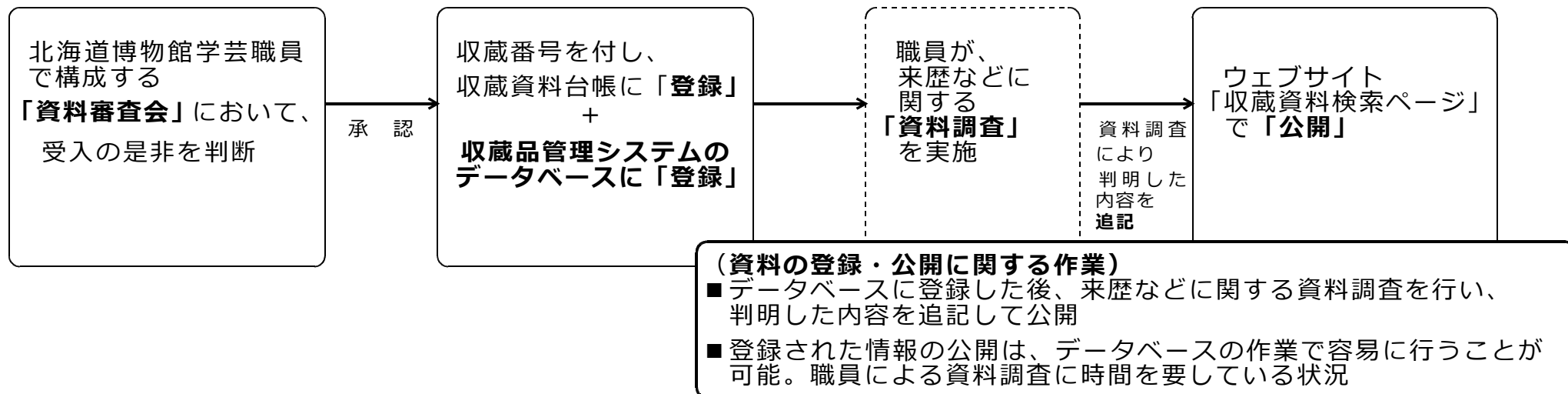
項 目		1 3 アイヌ民族文化に関する調査研究や理解促進への取り組み									
担 当 課		アイヌ民族文化研究センター									
位置付け等		〈北海道博物館基本的運営方針〉 基本方針 4 専門的・総合的な研究を行う博物館として、北海道の未来に貢献する。 (アイヌ文化の振興に寄与するとともに、多文化共生社会の実現に貢献する。)									
中期目標・計画の内容 (Plan)		(1) アイヌ文化に関わる調査研究とその成果の普及 (2) アイヌ文化に関する学術情報の集約と発信・研究等の活動支援									
予算措置の状況		(単位：千円)									
		事業名	概要	R7	R8	R9	R10	R11	計	備考	
		博物館事業費(アイヌ研：資料収集)	アイヌ文化に関する資料収集等経費	268	268				536	【再掲1】	
		博物館事業費(アイヌ研：調査研究)	アイヌ文化に関する調査研究費	919	919				1,838	【再掲3】	
		博物館事業費(アイヌ研：広報)	アイヌ文化に関する広報啓発経費	251	251				502	【再掲7】	
		アイヌ文化情報発信強化事業	アイヌ文化に関する講座、講演会等開催経費	4,870	4,870				9,740		
		計		6,308	6,308	-	-	-	12,616		
活動実績 (Do)		(単位：件数)									
		項 目	指 標	R7	R8	R9	R10	R11	計	達成度	
		アイヌ民族文化研究センター所属職員による調査研究・資料管理の成果発表件数	目 標	7	7	7	7	7	35	157.1%	
			実 績	11					11		
		館内外におけるアイヌ文化に関する教育普及事業実施件数	目 標	10	10	10	10	10	50	160.0%	
			実 績	16					16		
		アイヌ文化に関する企画展示、クローズアップ展示の実施及び総合展示における資料の入替(更新)件数	目 標	12	12	12	12	12	60	383.3%	
			実 績	46					46		
		アイヌ文化に関する未公開の資料の新規公開件数	目 標	2	2	2	2	2	10	0.0%	
			実 績	0					0		
		アイヌ文化に関する伝承活動団体や自治体等に対する資料や情報の提供、事業協力等件数	目 標	2	2	2	2	2	10	100.0%	
			実 績	2					2		
		(太字は計画目標値)								平均	160.1%
自己点検評価 (Check)	達成区分	理 由 (要 因)								評価結果	
	目標・計画の達成状況	計画以上に達成 160.1%	・アイヌ施策推進法施行に伴い、アイヌ文化の伝承活動従事者のみならず、道内外の自治体等による事業化に向けた動きが増えるなど、学習・支援ニーズが高まりを見せる中、調査研究及び資料整理、教育普及行事、企画展等の取組を積極的に行った。 ・未公開資料の新規公開については、プライバシーに配慮した承諾等の手続に時間を要し、公開まで至らなかった。								A +
	重点目標 その他実績等の有無	有無	重点目標その他の実績等の内容								
		有	・文化観光推進事業により、「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」をリニューアルするとともに、総合展示室第2テーマ「アイヌ文化の世界」の展示改修を行った。【再掲1、2】 ・初山別村教育委員会との共催によるアイヌ文化巡回展の実施【再掲2】や、Punkarネットワークへの参加など、展示や研修で他機関との連携を図った。								
	成果 (アウトカム)	成果(基本的運営方針に定める使命や基本方針の視点) ・調査研究、教育普及活動、展示実施、情報提供・事業協力など、多様な活動を通じて、道内外の人々のアイヌ文化への理解、市町村等のアイヌ文化に関する活動の促進が図られた。 ・基本方針4(2)アイヌ文化の振興・多文化共生社会の実現に寄与した。									
課題と対応方向 (Action)		今後の課題と対応方向 ・アイヌ語・アイヌ文化・アイヌ史に関する情報提供や支援のニーズは、今後も増加が予想され、引き続き、アイヌの歴史や文化に関する専門的研究機関を有する総合博物館として、着実かつ継続的に活動を展開していく必要 ・アイヌ文化に関する未公開の資料の新規公開については、令和8年度内公開に向け、準備作業を推進									

(矢野委員)

議 事	意 見 (質 問)	状 況 等
令和8年度 (4～9月) における当館 の動向につい て	- 前期の展示を拝見にいくことができませんでした。申し訳ありません。 - 事業の実施状況を拝見すると、タイトルがわかりやすかったり楽しげだったりしていて、伝わりやすく参加したい意欲が湧いてきます。	—
令和7年度 評価について	〈全体を通して〉 - 自己点検評価シートがとてもわかりやすかったです。 - チャレンジ、連携の姿がみえて博物館の躍動感（積極的な姿勢）が伝わってきました。 - 他館他者との連携、調査研究発表機会の増加、学芸員の学びの機会が増えた点を拝見し、北海道の中核博物館として様々な活躍・実力の積み上げをされている様子が伝わってきました。 - 引き続き、多様な関係者との連携や外部に開けた活動を展開されることで、現状課題とされていることを解決していく方法が関係者とのネットワークからみつけれられるのではと思うので、これからも応援しています。 〈個別の疑問等〉 1. 資料の収集・保存と利活用 - 収蔵資料の新規登録件数／資料のデータベース新規登録数 ⇒ 資料の調査は時間がかかるので仕方がないと思います。 <u>ここでデータベースに登録した内容を下記のウェブサイト新規公開へと作業が繋がりますか？</u> - ウェブサイト新規公開数 ⇒ ウェブサイト新規公開の作業について、きちんと理解できていないので勝手な想像での質問なのですが、データベースに登録した情報をウェブ制作業者等に、そのまま流し込みをお願いするような作業の流れをイメージしたのですが、サーバー移行作業に予算がかかってしまい費用不足で業者様にデータを送り込めなかったのでしょうか？ <u>それとも学芸員さんの手でウェブの移行作業をしなければなら ないため人手が足りなかったのでしょうか？</u> - どちらも5か年の目標数が膨大なので、作業手順、分担（学芸員さんでないとできない作業、業者様にできるだけ委託する作業）を明確にして進める方法をご検討されてはと思います。 2 展 示 - 総合展示利用者数の減が交通の困難さや学校団体の減少が原因の一つとのことですが、文化観光推進事業の共同申請者には様々な分野の第一線の事業者様がいますので、それぞれの分野を生かした連携などご検討できそうですがいかがでしょうか。 6 野幌森林公園エリアの活用と整備 - 野幌森林公園をアドベンチャートラベルの舞台として訪れる人の増加があげられています。 総合展示利用者数減やグループレクチャー減、ウェブサイト閲覧の課題を、アドベンチャートラベルの舞台として訪れる人が増加している好要因と繋げることで、数値としては少ないかもしれませんが、地道な増加に繋げることはできないでしょうか。 例えば、アドベンチャートラベルのツアーエージェントへの周知によるツアーへの組込みや、ツアー参加者がツアーを探す際にみるウェブサイトにも当博物館の紹介掲載など。	別紙「資料の収集・保存と利活用に係る状況について」 共同申請者である（公社）北海道観光機構からは、美術館、博物館への来訪者数に関し、東アジアは減少傾向にある一方、欧米が増加傾向にあるなど、観光動向について情報をいただいているほか、R7は、当該機構連携の下、ホテル業者への特別展チラシ配架によるPRを実施 - R7は観光機構主催のAT商談会に参加し、PR実施 - R8は宿泊税事業を予算化

〈別紙〉資料の収集・保存と利活用に係る状況について

〈作業のフロー〉



〈自己点検評価調書の内容〉

〈評価項目：収蔵資料の新規登録件数 /データベースの新規登録数〉

目 標	400件
実 績	105件
	※ 3,335件
達成 状況の 理由 (要因)	全国樺太連盟から寄贈された樺太関係資料3,335件の登録の完了に注力し、その他の資料の登録数は105件に止まった。
重点目標 その他 実績	全国樺太連盟からの寄贈資料6,000点について、令和8年度の企画テーマ展開催を見据え、令和6年度、7年度（各年度3,000点超）に集中的に作業を進め、登録を完了させた。

達成率
26.3%

※樺太連盟寄贈資料

〈評価項目：ウェブサイト 「収蔵資料検索ページ」新規公開数〉

目 標	1,200件
実 績	79件
達成 状況の 理由 (要因)	R7は、年度内にデータベースのリニューアルに伴う移行作業が発生し、目標を大きく下回った。
重点目標 その他 実績	文化観光推進事業により「ほっかいどうアイヌ語アーカイブ」をリニューアル／イベント等において活用が可能な映像資料のデジタル化

達成率
6.6%